

③ 認知症の方への接し方



3-1 認知症の方への接し方



認知症の方と過ごしていると、「あれ?」「なんでこんなことするのか?」といったことがたくさんあります。でも、怒ったり、無理をさせることで、本人の不安や混乱を強くしてしまいます。どんな行動にも理由があるので「なぜこんな行動をとるのか?」ということをご本人の立場に立って考えてみてください。その人の行動の理由が少しでも分かるかもしれません。

「おどろかせない」「ゆっくり接する」「心を傷つけない」ことを念頭に置いて、ご本人が安心して過ごせるようにかかわっていきましょう。ご本人が穏やかに過ごせることで、ご家族も笑顔と一緒に過ごすことができます。

おどろかせない

ゆっくり接する

心を傷つけない

3-2 よくある例…

同じことを何度も聞く

同じことを何度も聞いたり、話したりすることは、よくある症状です。「さっきも言ったでしょ!」と怒ると、本人にとってはショックや不安が大きくなります。症状が進行してくると、さっき食べたのに「ご飯まだ?」と言うこともあります。

大切なことは、「伝えた」「食べた」といった事実を本人に理解してもらうことではなく、どう納得してもらうかです。

かかわりのポイント

- 「そうね…」と話を繰り返し聞いてつきあってあげましょう。
- 「今、準備しているので、もう少し待っていてください」「これを食べてね」など、話題を変えたり関心をそらしてみましょう。

置き忘れ、しまい忘れがある。「盗まれた」という

「物がない」と言って探し物をすることもよくあります。自分で置いた場所やしまった場所を忘れていることがほとんどですが、自覚がありません。普段、お世話をしている人に「盗まれた」と疑いの目が向けられてしまうことも少なくありません。

「一緒に探しましょう」と、どの辺りを探すといいか誘導して、本人が見つけれられるようにしてみてください。

かかわりのポイント

- 一緒に部屋を片付けてみましょう。散らかっていると危険ですし、物も見つけにくいです。
- 一緒に探していた人が、先に見つけたときは、本人が自分で見つけれられるように「この辺りを探してみてください」と誘導してみましょう。

「家に帰る」と家を出て行こうとする

今、自分のいる場所が分からなくなり、不安になっています。「仕事に行く」「お迎えに行く」など、最近の記憶が薄れて、過去の習慣に従っている場合もあります。

ここが自分の家で、退職していることや、お迎えの必要がないことを説明して、理解してもらうのは難しいです。無理に説得しようとせず、一旦気持ちを受け止めてみてください。

かかわりのポイント

- 帰りたという気持ちから遠ざけるため、一緒に外に出てみましょう。気持ちが落ち着くことがあります。
- “ここにいてもいい”という安心感を持ってもらうため「今日は、泊ってくださいね」「今日はお休みですよ」「ご飯を食べてからにしましょうね」など、気持ちを受け入れてみてください。
- 一人で出かけて、道に迷ってしまう場合は、「認知症高齢者等見守り・SOSネットワーク事業」に登録するなど、事前に備えておきましょう。
- ご近所の方に、事情を話しておくことで、普段の生活の中で見守りをしてもらえることもあります。

